

こんにちは！ 室長の工藤です。

春のことですが、ある通信社の記者のかたから「『古地図』を見ながらの町歩き」について電話取材を受けました。もうずいぶんと前のことなのですっかり忘れていたのですが、先日記事が掲載された新聞紙面が送られてきました。通信社から配信された記事ですから、それを載せる新聞社は全国にわたり、北は北東北、南は九州にまで及んでいます。記事は東京の「江戸ぶら会」が行っている町歩きが中心で、その合間に私のコメントが数行挿入されていました。

古地図を使った町歩きといえば、地域の歴史を知り、さらには「古里の魅力を再発見」するツールとしてこれまでも評価されてきました（『東奥日報』平成24年10月14日付）。それに加えて今回の記事では、「健康面」にも注目しているところが面白いところです。町歩き1回は5時間、そして15,000程歩くそうで、「古地図に集中しながら歩くので、体ばかりでなく脳の血流もよくなるので認知症の予防にもなるのでは」というような参加者の声も載せています。もちろん、認知症予防には医学的な裏づけも今後必要になるかと思いますが…。

青森県では目下「短命県返上」をキャッチコピーに、さまざまな取組が行われているようです。「古地図」を片手に町歩き、これも一役買うことができるかもしれませんね。時代やストーリー（テーマ）を変えたコースでもって、「ふるさと青森」の知られざる魅力を学びながら健康増進も…というのはいかがでしょう。

聞くとところによれば、青森市の中心市街地は発掘調査の経験がないようです。ですから、江戸時代の古地図を手がかりに町を散策するのは、現在知り得るこの町の最も古い部分に触れることになります。しかも、古地図に描かれている町割りほぼ現在もそのまま残っているので、少しばかりの創造力は要るかもしれませんが、300年前の青森にタイムスリップすることができるのです。

そして記事は最後にもうひとつ、「仲良くなった仲間と一杯やるのも楽しみです」といった参加者の声で結んでいます。私の町歩きはかれこれ1年ほどお休みしておりますが、いくつか新しい知見も得ましたので、機会があればこれまでの内容をリニューアルして再開しようかと…記事を読み、そう考え始めたところです。



歴史講座「藩政時代の青森町を歩く」のようす
（平成25年開催）